

「史料紹介」徳島藩の武家文書「武藤家文書」の紹介一
 — 武藤左膳「成立書并系図共」の翻刻 —

須藤 茂 樹

「専門研究Ⅱ」

二〇二〇年度受講生

はじめに

二〇二〇年度「専門研究Ⅱ」では、徳島県立文書館に保管されている徳島藩のまとまった武家文書のひとつ「武藤家文書」を教材として取り上げることとした。本稿では、武藤左膳「成立書并系図共」の翻刻を掲載する。

「専門研究Ⅱ」における本史料の翻刻の担当は、大浦寧々・川口桃花・工藤史奈・小部さくら・杉本亜希・中 一紗・近藤春菜で、取りまとは小部さくら・近藤春菜・須藤がおこなった。授業には本学大学院文学研究科日本文学・書道文化専攻一年山口幸歩が参加し、適宜アドバイスをもらった。

武藤左膳「成立書并系図共」は、天保五年（一八三四）九月に徳島藩に武藤左膳宣旬が提出したもので、本史料はその控。大きさは縦三二・八cm、横二二・四cmである。

武藤左膳「成立書并系図共」の翻刻

（表紙）

成立書并
系図共

武藤左膳

（二丁目表）

成立

武藤淡路守近江國醒井ニ罷在候由、申傳候、嫡子長門守者仕秀吉公三万五千石領知仕、長門守嫡子伊豫者因命西堀氏之養子ニ罷成候、二男左京者長門守嫡子ニ罷成、

左京ニ三万石被下給、長門守者因命秀次公之執權職相

勤、文祿四未年秀次公高野山入之時、一味同心茂無之ニ付、

父子三人共黒田筑前守様江御預、長門守ニ貳百人扶持

伊豫ニ百人扶持被下、久敷筑前之國ニ罷在候、伊豫者筑

(二丁目裏)

前之國ニ而病死仕、長門守者彼國ニおゐて剃髮仕、名長入与

相改候、從

権現様長入・左京右之罪を御免被成候、此時筑前守授今

左京ニ被仰候者、此以後一万石を與へ可申間、國老相勤可申旨

強而仰御座候得共、筑前守様ニ屬不仕、依之御鬱憤甚

敷ニ付、長入・左京彼國を退、京都江罷越、長入者於京都

病死仕候、左京者石田治部少輔に屬仕候、

初代 武藤 左京 某

(二丁目表)

慶長五子年九月、関ヶ原一乱之節、石田治部少輔戦負、

右手ニ屬候故、関ヶ原敗軍之後、山内土佐守殿左京を土州ニ

被隠候所、黒田筑前守様左京治部少輔ニ屬仕候事を

御悪ニ達

上聞、左京居處露顯仕ニおゐてハ、重科ニ相行度由被願候を

土佐守殿及御聞、左京ニ今高禄を與候而者世間江之聞江度

有之、當時為茶料三千石可給之旨被仰聞候、左京申候者

飢寒を相凌候得者、大なる幸ニ候段申述、五百石給、土州ニ

(二丁目裏)

住居仕候、於彼地剃髮、名不庵与改候、然所子細有之候

旨ニ而彼地乘船仕、京都江相趣候處、海上風雨烈敷ニ付、

船を當御国沖ノ須浦ニ繫、風波之難を相凌候段、

瑞雲院様達

御聞、野々村左門を以幸ニ當 御国ニ船を繫候儀

御満悦ニ被

思召候条、久敷休息仕、他國江罷越申間敷候様重々御

懇之

(三丁目表)

御意を相蒙、當時為茶料貳千石可被下置旨被

仰出處、土州ニ而五百石を給り候得者、今高禄を領知仕候

儀、背本意候段、達而御辞退申上、如土州五百石被下置、

那賀郡今津浦ニ住居仕、其後勝浦郡中田村ニ罷在候、

大坂御陣之御御供仕 御帰陣之後老衰仕候ニ付、

休息可仕旨被 仰出、嫡子伊右衛門ニ家督諸式無御

相違被下置、隠居料五百石被下置、名休甫与相改候、其後右

五百石を三男權之丞ニ被下置、休甫ニ者貳拾人御扶持方を

(三丁目裏)

被下置、右夫々年号月日申傳之儘ニ而相分不申候、寛永

十八巳年三月十一日病死仕候、右權之丞儀如何仕候哉、

家断絶仕趣意并年号月日難相分御座候、

二代 武藤伊右衛門三宣

慶長十九寅年十八歳ニ而大坂御陣之節、

瑞雲院様御船ニ而武州江御供仕候、親左京家督無

御相違被下置候而、

(四丁目表)

御隠居御家老被 召仕 御名代又者御供仕、他國^江
度々罷越、関東^江数度罷越奉 謁
權現様

台徳院様

大猷院様候、右旅数左^ニ相記申候、江戸表^江十五^ケ度罷越候
内

瑞雲院様御供仕、四^ケ度罷越候、不時御用為御使者四^ケ度
罷越候、為年頭御使者七度罷越候、日光^江三度罷越候、内

(四丁目裏)

二^ケ度者

瑞雲院様御供仕、江戸表^ハ罷越候、同^ケ度者為

御名代 御国許^ハ罷越候、備前^江五^ケ度為御使者罷越

候、播州^江四^ケ度、内^ニ度者明石、同^ニ度者姫路^江為御使者

罷越候、因幡^江新太郎様御入国之砌、為御使者罷越候、

紀伊様^江為御見舞御使者二^ケ度罷越候、有馬^江尾張様・

紀伊様御湯治之砌二^ケ度罷越候、伊勢^江

瑞雲院様御參宮之御供仕罷越候、京都^江五^ケ度、内^四度者

(五丁目表)

御供仕罷越候、沓^ケ度者為御使者罷越候、大坂^江島原陣之

砌、為御使者罷越候、都合旅数三十九^ケ度相勤申候、右夫々、

年号月日相分不申候、尤其余、大坂御奉行所御城番^并

京都板倉周防守殿^江、数度御使^ニ罷越候様相見^江候得共、右

御用之筋、年号月日相分不申候、伊右衛門妻儀者、越前

國丸岡之城主青山修理太夫弟助左衛門娘^ニ而、助左衛門

妻者賀島主水姉^ニ而、

瑞雲院様御姪子様御所以御座候^ニ付、稻田八郎右衛門

(五丁目裏)

を以休甫^ニ被 仰出候者、幸^ニ浪人娘有之候、伊右衛門妻^ニ

持^セ可然^旨被

思召、御娘分^ニ被遊可被下置^旨之

御意^ニ付、御請申上、伊右衛門妻^ニ仕候、其砌為御引出、孫六

之御刀被下置候、其後倅出生仕候節、御米拝領仕、妻儀、

毎年頭為御祝儀登

城仕候節、土産^ニ仕候様之

御意御座候而、杉原紙^ニ棹宛毎年拝領仕候、万治二年

(六丁目表)

三月廿五日病死仕候、

弟伊吹惣右衛門某

松平相模守様御家中為伊吹大藏養子罷越候處、

子細御座候趣^ニ而、御國^江罷戻、伊吹惣右衛門与相名乗

罷在候處、被 召出、高^を茂被下置、御奉公仕候、惣右衛門

没後、嫡子角右衛門不心得之儀有之、御暇被下置、家断絶

仕候旨申傳候、二男弥^一右衛門儀者、惣右衛門在生之内

被 召出、御兒小性相勤、高百五拾石被下置候、右弥^一右衛門

(六丁目裏)

成立系圖之儀者、伊吹弥^一兵衛方^ハ、指上申候、

三代 武藤十兵衛安宣

親伊右衛門儀、在役之内旅役数々度相勤候ニ付、米銀多拜借仕返上難相調候ニ付、禄半数奉指上候處、相濟不申ニ付、追而百石減シ四百石被下置候旨申傳候、委細之儀者、相分不申候、十四歳シ

瑞雲院様、御側ニ被 召仕、十六歳之春、御刀可被下置候得共、

(七丁目表)

自分之物数奇ニ相拵可申旨ニ而御金拜領仕、同年之冬、御馬并飼料被下置候、右夫々年号月日相分不申候、十七歳之夏、井伊掃部頭様シ被進候、御帷子御武功之御家シ御到来被遊候、先祖代々曆々之子孫ニ茂候得者、長 御側近可被 召仕旨被 仰出、御手自シ拜領仕、其已来井伊掃部頭様シ被進候、御小袖御馬代等被下置候、右年号月日相分不申候、彼是御結構被 召仕候、然處寛永十五寅年

(七丁目裏)

瑞雲院様御逝去被遊候後、興源院様ニ奉仕候、右若年シ度々旅役茂相勤候様申傳有之候得共、旅役御用筋等難相分御座候、貞享三寅年十二月晦日病死仕候、

弟 武藤一右衛門冬知

寛永十一戌年被 召出十三歳奉仕
興源院様七人御扶持方御支配拾五石被下置相勤罷在候内、名采女与被下置、右年号月日相分不申候、其後米拾石御増

(八丁目表)

都合貳拾五石被下置候、右年号月日相分不申候、慶安元子年新知高二百石被下置候、生涯江戸在番九ケ度相勤申候、右夫々往來年号月日相分不申候、二代目武藤半兵衛在江戸三ケ度右年号月日相分不申候、其後江戸在番被仰付候處、老衰ニ相及、奉願嫡子茂兵衛儀為名代罷越、於彼地病氣ニ罷在、御國養生奉願、帰宅後病死仕候、右年号月日相分不申候、二男左吉後圓作又伊右衛門与相改、武藤勝五養子ニ罷成、其後當家相續仕候、三男伴右衛門

(八丁目裏)

半兵衛家督相續仕、江戸在番老度往來年号月日相分不申候、御代官、郡御奉行都合二拾ケ年相勤申候、右年数之間、委曲相分不申候、寶曆七丑年十二月十八日御代官所手崎散田之儀ニ付、郡御奉行江口弥三兵衛間違之儀取迷ニ相

欠字

及候間、委曲之儀相分不申候、依而役儀被召放蟄居被仰付候ニ付、厚慎罷在候、同九卯年七月三日御免被仰付、明和三戌年九月十三日嫡子文内向俊名代被 召仕旨被 仰出候、安永元寅年為在番江戸表江罷越、於

(九丁目表)

彼地御供小姓相勤、同三辰年正月帰宅仕候、右日相分不申候、後左膳与相改、當家相續仕候、以来之成立與ニ相記申候、

四代 武藤甚内宣勝

貞享四卯年十兵衛家督無御相違被下置候、右月日相

分不申候、元禄八亥年三月七日為在番江戸表^江罷越、翌子年五月廿五日御供婦宅仕候、寶永四亥年御供在江戸乗船罷越、右月日相分不申候、翌子年五月十五日婦宅仕候、正徳

(九丁目裏)

三巳年九月十八日裁許御奉行被 仰付候、享保八卯年六月十五日奉願候通、御役儀御免被 仰付年来相勤、大儀^二被

思召候旨、御結構之

御意之上、嫡子榮太郎向後名代被 召仕、家督諸式無

御相違被下置候、江戸表^江御使者^二ヶ度相勤申候、右往来年月日難相分御座候、元文四未年七月七日病死仕候、

(一〇丁目表)

五代 武藤榮太郎宣賢

享保八卯年六月十五日親甚内向後名代被 召仕家督無

御相違被下置候、同十巳年二月在江戸乗船罷越、同十午年

四月御供仕婦宅仕候、右往来日相分不申候、同十三申年二月

為御使者江府^江罷越、右日相分不申候、右罷婦候月日相

分不申候、同十九寅年二月嫡子無御座候^二付伊右衛門宣覺

相續養子奉願置、同廿日病死仕候、

弟 武藤勝五宣由

(一〇丁目裏)

寶永六丑年

南溟院様御代被 召出七人御扶持方御支配拾五石被

下置、御廣間御番相勤候内、

仁良院様奥御小姓被 仰付、新知高式百五拾石被下置、

江戸在番五ヶ度相勤申候處、於彼地病死仕候、右年月日夫々

相分不申候、武藤半兵衛二男左吉宣覺養子奉願置候通被 仰付、家督諸式無御相違被下置相續仕罷在候處、榮太郎奉願置候通養子^二被 仰付候、

(一一丁目表)

六代 武藤伊右衛門宣覺

享保十九寅年五月三日養父榮太郎奉願置候通相續被

仰付、家督諸式無御相違被下置候、依之末家^江罷在候節之

高式百五拾石奉指上候、同二十卯年十二月為在番江戸表^江

罷越候、右日相分不申候、元文元辰年右在番中遠州大井川

御普請 御手傳御蒙被遊、右添御奉行被 仰付、

同年二月發足仕、大井川^江罷越右御用相勤、四月江戸

(一二丁目裏)

表^江罷婦候、右夫々日相分不申候、同二巳年七月婦宅仕候、

右日相分不申候、同五申年十二月廿一日御拝領鶴到着仕候^二付、

右為御使者良刻出立、江戸表^江罷越、右御用相勤婦宅

仕候、右月日相分不申候、延享四卯年六月病氣大切^二相及

男子無御座候^二付、山崎凶書二男右源治相續養子^二奉願

置病死仕候、

七代 武藤左膳宣方

(一二丁目表)

延享四卯年十月三日、伊右衛門奉願置候通相續養子被

仰付、家督諸式無御相違被下置候、寛延二己年三月五日江戸

表^江為在番罷越候、翌午年五月十七日帰宅仕候、同年日

光 御宮御修履 御手傳御蒙被遊候、右御禮御使者

江府^江御指上被遊候間、常躰^江少指急罷越候様被 仰付、

八月二日出立罷越、同十月十日帰宅仕候、寶曆七丑年四月十日

為在番江戸表^江罷越、於彼地左膳与名替奉願通被 仰付候、

同八寅年四月廿九日帰宅仕候、同十二年閏四月廿四日

(二二丁目裏)

御帰城御禮為御使者江戸表^江罷越、同六月十八日帰宅仕候、

明和元申年之頃^江御家中所勢平^江被 仰付、御小性番頭被

仰付相勤候内、右組之内市原甫藏与申者兼而心得方不宜候

處、異見等茂行届不申候様御呵之上差扣被 仰付、尤組

御振更小普請組御預被遊候、右委曲相分不申候、安永二巳年

従来病身^江罷在、近年猶以病惱甚敷未養子仕候年齢^江者

無御座候得共、右之懸押立候、御奉公茂難相調候段、奉忍入、

依之養子仕度旨奉願候處、右月日相分不申候、同年二月

(二三丁目表)

廿二日前段趣意達

御聞被為

聞召届奉願通被 仰付候条、望之人柄可申上旨被 仰出候、

右^江付、猶又人柄之儀私儀者他家^江養子^江罷成、血脈薄^江御座候^江付、

末家武藤文内儀養子^江仕度旨奉願候、同年四月廿三日奉願

通養子^江被 仰付候、同日家族共引越^江并文内屋敷拜知帳

面等追而指上候、同年九月廿八日裁許御奉行被 仰付候、天明

二寅年七月朔日奉願通御役儀御免被 仰付、年来相勤

(二三丁目裏)

苦勞^江被

思召、養子文内向後名代被 召仕、家督諸式無御相違被

下置、剃髮仕、名孤雲与相改申候、寛政元酉年九月十二日

病死仕候、

八代 武藤左膳宣親

(貼紙)

年号月日何某奉願通養子^江 仰付、年号月日養父何某向後名代^江 召仕

家督諸式無御相違下置

天明三卯年四月朔日乗船、為在番江戸表^江罷越、於彼地

御客御会釈相勤、翌辰年五月十八日帰宅仕候、同十二月

(二四丁目表)

廿六日焼失^江付、同廿七日^江

御前相憚罷在候處、同五巳年正月四日御免被 仰付候、

寛政二戌年五月六日

御帰城御礼為御使者乗船、江府^江罷越、右御用相濟、

同六月十六日發足仕、先達而奉願候通、同月廿八日京都^江

罷越、於彼地堂前稽古試^江仕、同七月十五日帰宅仕候、同年

八月十三日裁許御奉行被 仰付候、同五丑年三月三日

御役替御年寄役被 仰付候、同年六月廿八日嫡子

(二四丁目裏)

半九郎儀虚弱病身^江付奉願通退身被 仰付候、同年

八月廿日二男政吉儀嫡子^江奉願候通被 仰付候、同年九月

十五日乗船、為在番江戸表^江罷越、翌寅年十一月朔日帰宅

仕候、同七卯年七月八日鷹司様為御使者乗船、京都江罷越、同廿五日帰宅仕候、同十二申年正月十九日眼氣之趣被聞召上、依之嫡子政吉向後名代被 召仕、家督諸式無御相違被下置旨被 仰付候、後剃髮仕、名一省与相改申候、文政十一子年正月十五日病死仕候、

(一五丁目表)

九代 武藤左膳親豊

(貼紙)

年号月日親何某向後名代ニ 召仕、家督諸式無御相違被下置、寛政十二申年十二月十三日左膳与名替奉願通被 仰付候、享和二戌年四月廿日、去ル十日 養壽院様御逝去ニ付、御両国諸士物代為鏡 御機嫌、江戸表江罷越、同六月七日帰宅仕候、文化元子年三月九日宗門改御奉行被 仰付、同三寅年二月廿八日右御用 御免被 仰付候、同五辰年十一月三日富田

(一五丁目裏)

御社御奉納の射手被 仰付相勤候、依之白銀壹枚被下置候、同七午年三月廿八日乗船、為在番江戸表江罷越、於彼地御客御会釋相勤、翌未年四月廿三日帰宅仕候、文政二卯年三月五日御射術御稽古指上候處、此度有岡禎助傳書指上候ニ付、為御祝儀白銀二枚被下置候、同十二丑年二月晦日為御用騎射稽古被 仰付、以来打續、年来世話役頭取苦 勞相勤候ニ付、御時服壹ツ被下置候、同十三寅年四月廿五日

乗船、為在番江戸表江罷越、御客御会釋相勤罷在候處、(一六丁目表) 同年九月二日病氣大切ニ相及、嫡子勘之助江相續奉願置、於彼地病死仕候、

十代 武藤左膳宣旬

文政十三寅年十月廿八日亡父左膳奉願置候通、家督諸式無御相違被下置候、天保三辰年八月三日為御用騎射稽古被 仰付候、同年九月十八日左膳与名替奉願通被 仰付候、同四巳年四月二日宗門改御奉行被 仰付、同九戌年十五日

(一六丁目裏)

右御用御免被 仰付、同年四月六日 御帰城御札為御使者乗船、江府江罷越○右御用相濟、同五月八日發足、同廿三日帰宅、十四卯年四月廿一日西 御丸御修覆御出来ニ付、引目御用被 仰付、右御用相勤候ニ付、同六月十五日御上下壹具被下置候、嘉永元申年四月九日乗船、為在番江戸表江罷越、於彼地御客御会釋相勤、翌丙ノ年閏四月三日 帰宅仕候、同年八月十二日病氣大切ニ相及、嫡子峯吉江相續 奉願置、病死仕候、

(一七丁目表)

系圖 武藤淡路守

藤原某

長門守後剃髮号長入

某

某 伊豫 爲西掘某養子

(二七丁目裏)

初代 左京隱居号不庵又休甫

某

妻宮部肥前守女

某 半左衛門 松平加賀守殿御家臣

某 三郎左衛門 松平加賀守殿御家臣

女 松平土佐守殿御家臣
嫁于廣瀬彌一右衛門某 彌一右衛門死後
嫁于森理右衛門宗明

(二八丁目表)

母宮部肥前守女

二代 伊右衛門

三宣

妻青山助左衛門昌満女

松平相模守様御家臣

物右衛門 爲伊吹太藏某養子 後 御國江罷越被 召出

某

女 松平土佐守様御家臣
嫁于岩田平藏某

男 左平太早世

(二八丁目裏)

女 嫁于西野角右衛門某

某 權之丞 被 召出後斷絶

女 嫁于太田金右衛門某

女 嫁于大久保彌次兵衛某

(二九丁目表)

某 伊吹角右衛門 家斷絶

某 伊吹彌一右衛門 被 召出伊吹彌一兵衛尹正元祖

女 早世

母青山助左衛門昌満女
十兵衛

三代
安宣

妻西尾頼母可世女

(一九丁目裏)

一右衛門

被 召出

冬知

妻肥後國浪人何某女

女

嫁于岩田傳右衛門三清

某

淺井以敬

男

淺井又六早世

女

嫁于河野徳左衛門直行

(二〇丁目表)

女

某

淺井與三左衛門

女

母肥後國浪人何某女

半兵衛

宣賢

妻岩田甚五左衛門長久女

某

萬平

(二〇丁目裏)

宣福

茂平

女

宣覺

左吉爲武藤勝五宣由養子

某後爲榮太郎宣賢養子

命雅

母岩田甚五左衛門長久女

伴右衛門

妻和田喜右衛門女

(二二丁目表)

宣親

文内後左膳宣方爲養子

宣豊

半九郎

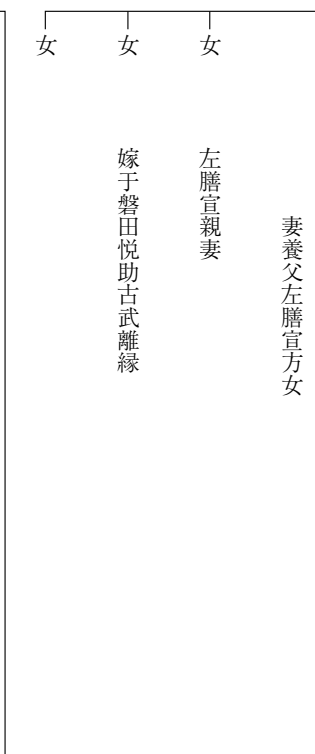
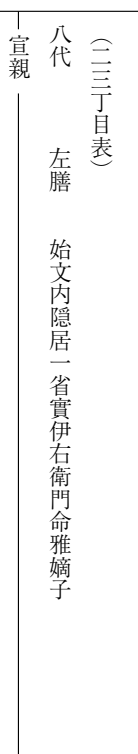
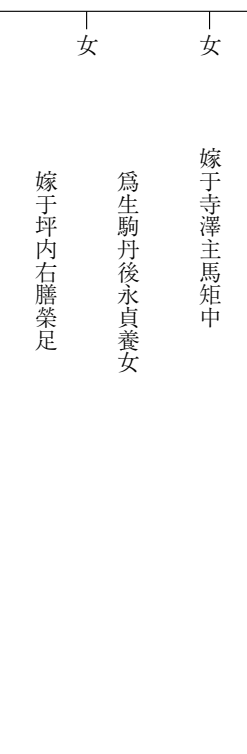
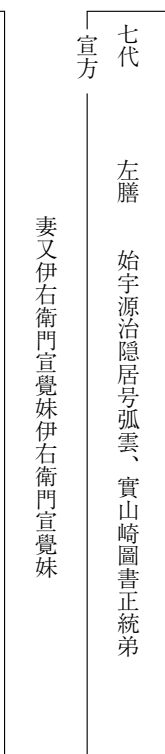
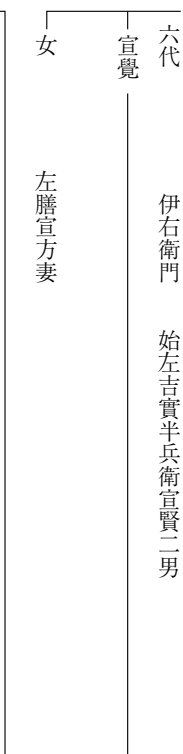
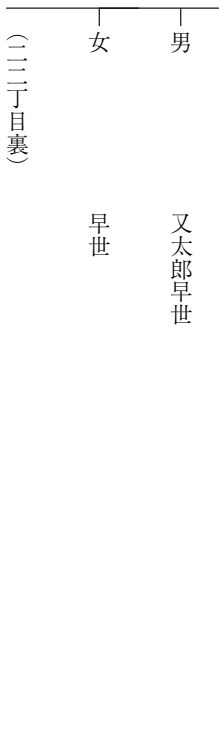
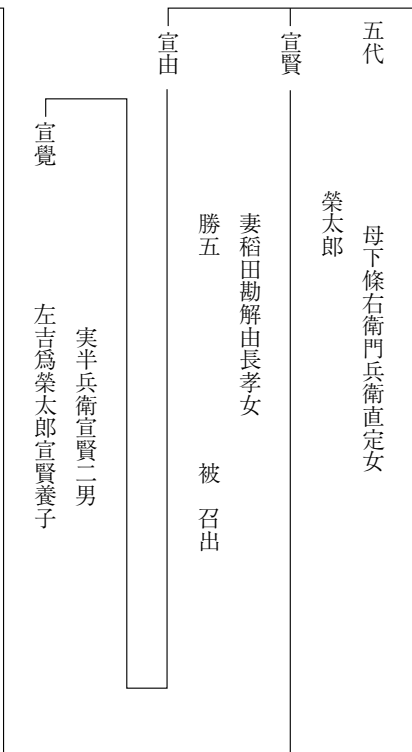
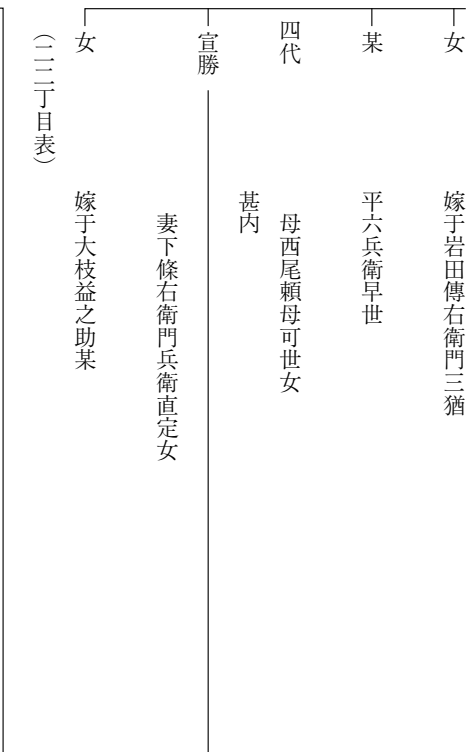
親豊

政吉

女

嫁于西尾彌一左衛門由又

(二二丁目裏)



半九郎 病氣退身号遊醉

宣豊

女 早世
女 嫁于林久米太郎清敏

九代 母左膳宣方女

左膳 始政吉

親豊 妻生駒主膳何前養女實柏木原人友諒妹

女 早世

(二四丁目表)

妾腹 爲酒部博八益興養子

宣蕃 豊太

妾腹 恒太

宣遊 恒太

妾腹 將曹

信曹 爲武市左兵衛信圭養子

十代 母生駒主膳何前養女、實柏木原人友諒妹

左膳 始建太郎、後勘之助

宣旬 妻池田大隅昭訓妹

(二四丁目裏)
宣畝

萬三郎 早世

女 妾腹 早世

女 妾腹 嫁于柏木小半太友直

宣輔 妾腹 佐之丞 爲伊吹彌一兵衛尹正養子

女 妾腹 嫁于柏木原人友賢

女 妾腹 嫁于山崎主膳殿幸周

(二五丁目表)

男 早世

十一代 母池田大隅昭訓妹

宣芳 峯吉 妻佐渡左近 娘

男 早世

男 早世

(二五丁目裏)

男 早世

〔史料紹介〕 徳島藩の武家文書「武藤家文書」の紹介 ― 武藤左膳「成立書并系図共」の翻刻 ―

早世

女
宣忠

峯治郎

(二六丁目表)

高四百七石貳斗

武藤左膳

定紋(家紋)

天保五年九月

(文学部日本文学科日本文化史・博物館学研究室)